

剰余金3億7700万円

令和6年度2期連続黒字確保

当組合は6月27日、通常総代会を石巻市のマルホンまきあーとテラスで開き、令和6年度の事業報告や7年度事業計画など6議案を承認した。販売事業の受託販売取扱高は34億8783万円、東日本大震災以降最高だった前年度を5%ほど下回ったが、当期剰余金は前年度比53%増の3億7700万円を確保、2期連続の黒字となった。

6年度の事業利益は1億3524万円（前年度4億4661万円）（前年度比67%増）となった。販売事業の受託販売取扱高は、鮮魚類が166億6789万円、貝類33億3553万円、海藻類（水産製品・加工品含む）が132億9870万円など。受託販売の総取扱量は39万3330トンだった。品目別では乾のりが前年度に比べ取扱高33%増の82億3140万円、書面含め143人が出席した通常総代会



（数量11%増）。国内他産地の不作もあり価格は高騰し、ピーク時には1枚平均33円を付けた。ワカメは30%増の49億1481万円（同2%減）、前年のシケ被害などによる減産を受け、品薄感から引き合いが強まった。カキは数量が前年度比12%増加も、金額は26%減の21億8697万円。ギンザケは17%減の68億4000万円、ホタテは65%減8億5778万円、ホヤ46%減1億9350万円、いずれも前

当該事業年度および直前3事業年度の事業成績ならびに財産および損益の状況

（令和6年度「業務報告書」から。単位：千円）

区分	項目	令和3年度	4年度	5年度	6年度(当期)
財務	事業利益	79,450	197,863	△124,106	135,243
	経常利益	203,078	353,596	267,425	446,606
	当期剰余金	208,065	△27,978	245,006	377,091
	総資産	85,962,962	89,013,018	93,308,961	13,394,940
	純資産	5,960,700	5,502,713	5,691,858	5,926,640
共済事業	長期共済保有高	50,397,900	48,136,000	45,092,100	44,680,800
	短期共済契約高	45,498,160	47,671,570	46,181,020	47,436,320
購買事業	石油類供給高	3,155,998	3,666,795	1,960,217	2,072,155
	資材類供給高	3,740,872	4,514,884	6,990,230	7,447,964
販売事業	受託販売取扱高	26,054,993	35,766,528	35,839,043	34,187,833
	買取販売高	617,829	632,761	2,280,584	1,752,857

寺沢春彦組合長に聞く

組合員の努力に感謝 課題克服へ連携深め

昨年度の決算や事業の方向性、激変する海洋環境への対応などを寺沢組合長に聞いた。



「海洋環境の激変、水産資源の減少など厳しい状況下でも組合員の皆さんが頑張った結果であり、感謝しかない。全体的に生産数が減少している中、高値に助

けられた部分もあるが相場は約束されたものではない。今後いかに生産量を伸ばしていくか、維持していくかが課題となる」

「気候変動や燃油、資材の高騰で漁家経営は厳しさを増している。『養殖では気候変動を踏まえた種苗の確保、品種改良も含め生産量を向上させる研究は力を入れて取り組まなければならぬ。燃油高騰や不漁に

「何の落ち度もない組合員が一方的に不利益を突きつけられるのは納得できない。1日も早い輸出再開を国に強く働きかけ、引き続き安心安全を

「目の前の海が変わる中、継続すべき所は継続し、変わらなければならぬ所は変えながらしっかりと対応していきたい。まだまだ宮城の海にはポテンシャルがあると信じている。浜の未来に向けて、組合員の皆さんと一緒に取り組みたい」



当組合や宮城県生活協

同組合連合会など4団体でつくる「宮城県協同組合こんわ会」は7月6日、石巻市の渡波海水浴場で海岸清掃活動「海のクリーンアクション」をみやぎ生活協同組合と共催した。写真：豊かな海を守るろうとインターネットなどを通じて呼びかけに家族連れら100人が参加、ペットボトルなど海岸のごみ拾いに汗を流した。

海洋プラスチックごみ問題などへの関心を高め、活動に力を注ぐ「みやぎ生協」の主催で今回、初めて実施された。当組合も場所の選定など協力し、本所や石巻支所の職員など約15人が参加。平塚正信専務理事は「次

豊かな海を次世代へ 海浜清掃で意識共有

こんわ会

「豊かな海を次世代へ」という思いを共有し、海浜清掃活動を通じて、豊かな海を守る意識を共有する。昨秋以降、女川町支

所や表浜支所、仙南支所管内で合同活動を実施、救命胴衣の正しい着用などを呼びかけている。宮城海保によると、2020〜24年に県内で発生した海上での人身事故のうち6割が漁船で発生。漁業機械への巻き込まれや衝突などの負傷、海中転落、体調不良によ

る事故が多く、要因として油断や慣れによる不注意、船や漁業機械のメンテナンス不足も見られるという。同交通課の豊若俊介課長は「慣れた海や船であっても少しでもおかしいと感じたら無理をせず、危ない所はないか細心の注意を払い、身を守る備えを万全にしてほしい」と訴える。

天候や自身の体調を把握し、作業中の足場の確保など転落防止を徹底した上で▽救命胴衣を正しく着用し、胴衣本体やベルトなどに切れや破損は

海難防ぎ安全操業

宮城海保

慣れた海でも細心の注意を



昨年11月に表浜支所管内で行われた合同海難防止活動

ないか定期的に点検▽万一の落水時に船上に上がる手段、または救助を待つ際につかまり体力温存を図る手段として縄はしごを装備▽携帯電話を防水パックに入れて携行するなど緊急連絡手段を確保し、万一の際は「118番」へ連絡―が早期救助に重要と説く。

組合からのお知らせ 指導部共済課

一時払介護共済 あしすと

7月1日よりJF共済の介護保障が新しく生まれ変わりました。予定利率を見直し、これまでよりも少ない負担でご利用いただけるようになりました。

もし自分に介護が必要になったら―その後の生活にどれだけお金がかかるのか、家族の生活がどうなるのか、不安を感じる方は多いと思います。一時的、長期的に総額500万円以上かかることも言われています。

《あしすと》は介護の不安に一生涯備えることのできる介護共済です。40から80歳まで、健康に不安をお持ちの方も簡単な告知でご加入いただけます。

まとまった資金を活用して 介護の不安に一生涯備える共済

公的介護保険制度に連動して、要介護2、5に認定された場合に共済金をお支払いする仕組みで、終身にわたる保障されます。また、要介護認定を受けられない場合でも、高度障害になられた際には同様のお支払いができます。万一の際には一時払共済掛金相当額の死亡共済金をお支払いします。

一時払共済掛金を設定する際に用いる予定利率は、金利情勢に応じて毎月1日に見直され、ご契約される月によりお払込みいただく共済掛金が増減する場合があります。

詳細やご相談、お問い合わせにつきましては本所・各支所の共済担当課まで、気軽にお声がけください。

介護の不安に一生涯備える 一時払介護共済 あしすと まとまった資金を活用し、介護の不安に一生涯備える共済です。 一時払共済掛金 払い込むお金 介護共済金 受け取るお金 まずはご相談ください!

ニューフェイス 『こんな職員になりたい!』

当組合は4月1日、11人の新人を迎えました。希望や決意を胸に配属先で一生懸命仕事を覚えていきます。皆さん、よろしくお祈りします。(名前の読み=年齢、出身地)

寄り添って貢献 本所経済事業部販売課



遠藤 舞華 (えんどう・まいか= 22、石巻市) 組合員の方々に寄り添い、頼りにされる職員になりたいです。そのために早く販売課の業務を覚え、積極的に業務に取り組んでいきたいです。今はまだ先輩方に教えてもらうことばかりですが、これからたくさんの方々のことを覚え、組合員の方々に貢献できるように努力していきたいです。

誠実に向き合う 矢本支所



浅見 功輝 (あさみ・こうき= 22、柴田町) 私はこれまで漁業とはかけ離れた環境で過ごしてきたので、実際に働いて初めて見聞きすることがほとんどでした。今後、いざという時に分からないことがあっても仕事になりません。分からないことがあれば積極的に聞いて学び、着実にできることを増やして、一つ一つの仕事に誠実に向き合っていきたいです。そして最終的には何でもできるようになって、皆さんに信頼される職員を目指し頑張りたいです。

漁業者を支える 仙南支所(亶理)



太齋 希望 (ださい・のぞみ= 23、白石市) 海と向き合って働く漁業者の方々を、身近な所で支えられる職員になりたいと考えております。日々の仕事や季節の変化に向き合う現場の声にしっかり耳を傾け、よりよい方向へ進むための力になればいいと思います。人と海のつながりを大切にしながら、地域に根ざした活動にも積極的に関わり、信頼される存在を目指して努力していきたいです。

明るさで活気を 気仙沼地区支所



伊藤 優雅 (いとう・ゆうが= 23、仙台市) 私は若さを武器に活気を与えられる職員になりたいです。組合員の皆さまとコミュニケーションを積極的に取り、持ち前の明るさで漁港・漁協に良い雰囲気や影響をもたらすことのできる職員になります。そのため、まず信頼してもらえるように与えられた仕事に誠心誠意取り組みたいと思います。まだ右も左も分からない状態ですが、責任感を持ち、明るさを忘れずに頑張ります。

先輩の負担減へ 本所指導部振興課



阿部 颯心 (あべ・そうしん= 21、石巻市) いち早く仕事を理解して役に立てるようになりたいです。今は分からないことが多く先輩方に迷惑をかけてしまっているので、それぞれの事業をよく理解して、先輩方に一つ一つ聞かなくても自分で考えて動けるように努力し、電話対応なども自分で考えて答えられるようになり、先輩方の負担を減らせるように頑張っていきたいです。

組合員を第一に 志津川支所



吉岡 優泰 (よしおか・まさひろ= 23、京都市) 協同組合論に基づき、「組合員第一」を常に意識しながら業務に取り組んでまいります。組合員の皆さまの生活と産業を支えるため、時代の流れを読み取りつつ、持続可能な漁業と水産物の付加価値の向上に貢献していきたいと考えています。皆さまとともに歩む姿勢を貫き、責任ある行動で信頼される職員を目指して精進してまいります。

頼られる存在に 大谷本吉支所



畠山 好幸 (はたけやま・よしゆき= 23、気仙沼市) 信頼される職員になりたいです。私がなりたい職員像は大きく分けて二つあり、一つ目は業務を安心して任せられる職員です。業務の一つ一つを丁寧にこなし信頼されるよう努めます。二つ目は組合員の方々から頼られる職員です。そのためには仕事の正確さだけでなく人柄も重要だと思いますので、コミュニケーションを取り信頼関係を構築していきたいです。

挑戦し成長する 七ヶ浜支所



伊藤 孝太 (いとう・こうた= 18、松島町) いろいろな場面で役に立てるような職員になりたいです。そのためにはチャレンジ精神を持つことが今、大事なことだと思っています。何事にも怖がって手を出せずにいたら自分の成長にはつながらず、私のなりたい職員には近づくことができないと思うからです。いろいろなことに挑戦し、いろいろな場面で役に立てるような職員になれるように頑張ります。

信頼得て誠実に 七ヶ浜支所



遠藤 静華 (えんどう・せいか= 19、東松島市) 信頼される職員になりたいです。信頼を得ることで、より前向きな気持ちのやりとりができると思っています。そのためには約束を守ることはもちろん、報告・連絡・相談を徹底して、情報共有を円滑に行うことが、特に重要だと考えています。組合員の方だけでなく、仕事に関わるすべての人から誠実、頼りになる存在でありたいと思っています。この姿勢を貫くことで、信頼を得られるよう努力してまいります。

何事にも全力で 宮戸西部支所



高橋 優来 (たかはし・ゆら= 18、美里町) 組合員の皆さまに頼っていただけるような職員になりたいです。この目標を実現するために仕事を丁寧に覚え、先輩方に助けていただきながら一つ一つの仕事をやり遂げ、学んだことを進んで生かせるように頑張りたいです。社会人になったばかりで不安もありますが、組合員の皆さまと接する中で多くを学び、いただいた貴重な意見を大切に、一日でも早く立派な職員に成長していけるように、何事にも全力で挑戦してまいります。

笑顔増やす職員に 女川町支所



伊藤 壮汰 (いとう・そうた= 22、東松島市) 明るくコミュニケーションを取り、組合員さんの笑顔を増やす職員になりたいです。組合員さんが何を必要としているのか、何が現状大変なのかといったことが会話することで鮮明になってきます。それらを改善していくことで不安や不満などが消え、安心して笑顔が増えるのではないかと思います。皆さんの笑顔が増えるよう精いっぱい頑張ります。

震災後最高85億円

乾のり 高値維持、平均24円70銭

今季の県産乾のり「みちのく寒流のり」は順調に出荷を重ね、共販実績は数量が前季比22%増の3億4323万枚、1枚当たりの平均単価が同9%高の24円70銭だった。目標とした4億枚には届かなかったものの、シケ被害などにより減産した昨季から大幅に回復。品質も好評で、国内他産地の不作傾向による品薄感もあり高値を維持した。販売総額は84億7802万円（同33%増）で、東日本大震災以降最高を記録した。

今季入札会は昨年11月で、全14回にわたって県漁協塩釜総合支所・乾のり集出荷所で開かれた。初入札では、買受人から「色つや、味も悪くない」「初日としては品質のいいものが並んだ」と評価を受け1枚は高かった。



初入札では、買受人から「色つや、味も悪くない」「初日としては品質のいいものが並んだ」と評価を受け1枚は高かった。

の後も高値で推移し、2回目（昨年12月6日）28円16銭、3回目（同17日）29円45銭、4回目（同25日）30円台を突破し31円35銭。5回目（1月10日）33円14銭をピークに価格は徐々に落ち着き、最終入札（5月9日）では18円84銭だった。

「来季以降も生産者と組合で一丸となって生産増に努めたい」と力を込める。大を目指す。同グループのメンバーでレシピを考案した料理人でもある佐藤将人さん

「今後の組合員の皆さんの活動を応援し、製品の商品化を進められたい」と力を込める。

「今後の組合員の皆さんの活動を応援し、製品の商品化を進められたい」と力を込める。

「今後の組合員の皆さんの活動を応援し、製品の商品化を進められたい」と力を込める。

「今後の組合員の皆さんの活動を応援し、製品の商品化を進められたい」と力を込める。

組合員と連携開発 最高賞メニユー商品化

当組合はこのほど、プライベートブランド（PB）商品「旨味たっぷりみやぎサーモンと牡蠣のバターピラフ」を発売した。志津川支所の漁業者グループ「戸倉Sea Boys（シーボーイズ）」が昨年11月、全漁連主催「Fishery Grantプリ」の料理コンテストに出品し最高賞を受賞したメニユーを高く評価し、商品化により組合員の活動を応援し、県産水産物の普及拡大につなげたいと意



サーモンとカキを使ったPB商品

製造協力する。本所流通推進課の大山宏樹課長代理は「本県ならではの新たな土産物として観光客などにアピールし、県産水産物の普及拡大につなげたい」と意

製造協力する。本所流通推進課の大山宏樹課長代理は「本県ならではの新たな土産物として観光客などにアピールし、県産水産物の普及拡大につなげたい」と意

製造協力する。本所流通推進課の大山宏樹課長代理は「本県ならではの新たな土産物として観光客などにアピールし、県産水産物の普及拡大につなげたい」と意

製造協力する。本所流通推進課の大山宏樹課長代理は「本県ならではの新たな土産物として観光客などにアピールし、県産水産物の普及拡大につなげたい」と意

製造協力する。本所流通推進課の大山宏樹課長代理は「本県ならではの新たな土産物として観光客などにアピールし、県産水産物の普及拡大につなげたい」と意

組合員の収益安定へ 緊張感持ち取り組む

立花洋之常務理事に聞く

信用事業を譲渡し、経営事業を柱とした組合運営となり一年が経つ。課題や今後の方向性を、担当の立花洋之常務理事に聞いた。



立花洋之常務理事

「販売の面ではプライベートブランド（PB）商品の開発に取り組んでいる。7月に一つ商品化し、ほかにも試作中だ。県と連携し、広く海外への輸出量増加、品目拡大にも努めていく。大型量販店など販路の拡大も急務だ。そのために多様なイベントを通じた県産水

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

「具体的な方策は。販売の面ではプライベートブランド（PB）商品の開発に取り組んでいる。7月に一つ商品化し、ほかにも試作中だ。県と連携し、広く海外への輸出量増加、品目拡大にも努めていく。大型量販店など販路の拡大も急務だ。そのために多様なイベントを通じた県産水

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

産物の魅力発信、ブランド力の強化が必要だ。一方、海洋環境の変化で苦戦する品目もあり、組合員の収益安定に向け緊張感を持って取り組んでいる」

全国で待つ消費者へ

ワカメ 46%増8141ト



初入札会で品質を確認する買受人ら

県産ワカメの入札会が2～5月、気仙沼市の当組合わかめ流通センターで全10回にわたり開かれた。初回入札会の冒頭、あいさつに立った寺沢春彦組合長は「安全安心でおいしいワカメを全国の消費者が待っていると胸に刻み生産にまい進する」と生産者の意気込みを代弁した。

高水温の影響により生育が遅れた地域もあったが、外洋物が出始めた。

高水温の影響により生育が遅れた地域もあったが、外洋物が出始めた。

高水温の影響により生育が遅れた地域もあったが、外洋物が出始めた。

高水温の影響により生育が遅れた地域もあったが、外洋物が出始めた。

キロ平均800円台

キンザケ 需要高く試食会盛況

今季の県産養殖キンザケは減産となった昨季から上向いている。7月10日時点の当組合のまとめ

によると水揚げは前年同期比4%増の1万3190ト。キロ平均単価は同11%高の835円となった

おり、天然魚の不漁や不安定な国際情勢によるサケマス類の輸入鈍化を懸念した引き合いの強さをうかがわせる。

県産キンザケの魅力が発信し、買受人らに一層の販路拡大を呼びかける

仙台で県水産物PR 「食の祭典」に1万人

「食の祭典」に1万人

県産水産物の魅力を発信する「宮城けんき市2025海のグルメフェスティバル」が5月3日、仙台市中心部の錦町公園で開催され、県内外から約1万人が来場した。

が、今回はホヤ、カキ、キンザケなどの県産魚介を堪能できる「食の祭典」にリニューアル。県内の水産関連業者や飲食店25社がブースを並べ、「ホヤチーズ」「タコ、ホヤ、貝柱のペペロンチーノ」「宮城三陸穴子のひつまぶし」など多様なメニューを提供した。



家族連れらに人気だったホヤ釣り

の竜田揚げ各400食を用いた。家族連れらに人気だったホヤ釣り